

ねが 春展のほりけ 即思してその即何の申事なり 当古も

即指でえ事でもやうに居りまうかして即安心下さる

去る五日より十五日は彼連の大賊良平次郎の即子息名古屋の中

京大に入校のため素直に隊員の親身も及ばぬ世話と云う

歸らぬまゝに 島の横標は大阪さんより降りて用込の四隊員名に大賊

十日衣は私・運下も名古屋にまゝに用込の四隊員名に大賊

さん、曾野達さんと交へいりて話し合ひまゝに 曾野さんから

は名屋さんのことも聞かまゝに 本島にあってあの標の俗説の

後居るたる中唯即一人で即心中の程即察し申上げ居り

まゝに 曾野さんの事近々仲絶に行かれます 現在長崎島

を頼りて居られよの文首春秋は八月より一年連載の由

先は書かれる句をいふの島と因に標の型で記されさうです

作家でその事案を記さるべき是非の利快は讀者に委せさ

より外に送つて出来ぬやう多量の事案の証言と集められ居

りまゝに 采田氏の予記は叙の異風の山り氏の資料、仲絶

戦の上地の資料等も先古より積極的に通って来たから由理了  
 村の傍に敵戦年の概要の域をわかれとつことであつた先日元琉球  
 新報の記者より手に書きとると言われ聞かざる竹はよりまうと  
 現石仲起のヌヌミの年合位は高松さんと信じてゐると言つて居り  
 まゝである大城さんも村で戦はると書き直せと村長に言つてゐると申  
 されて居りまゝなが一考せられ一程後布されてからでは難し  
 いぶらうかう別名(例、おぬる合)で新に眞実のものを出しな  
 うぶらうかと云つて思ひます。

ほれいとも私産は眞相の明白にされ私産の汚名が拭き去られ  
 3日と期待し努力して居りまう。一日も早く仲起の人々にも理  
 解して頂き私産と島民の心を合せて戦つる様には次の世代の  
 人々の憎しみを合ふことなしに本エの心を仲よくやうに中々うまことを祈  
 つて止せません  
 宇軍さんも機会をつくして是非本エに奉て下さる皆歓迎して  
 くれと思ひまう。島子供さんの勉強等につまみても私



no. 3

達と御利用下さる。或らごとき戦時中の御恩返しの為事なり  
幸甚なり

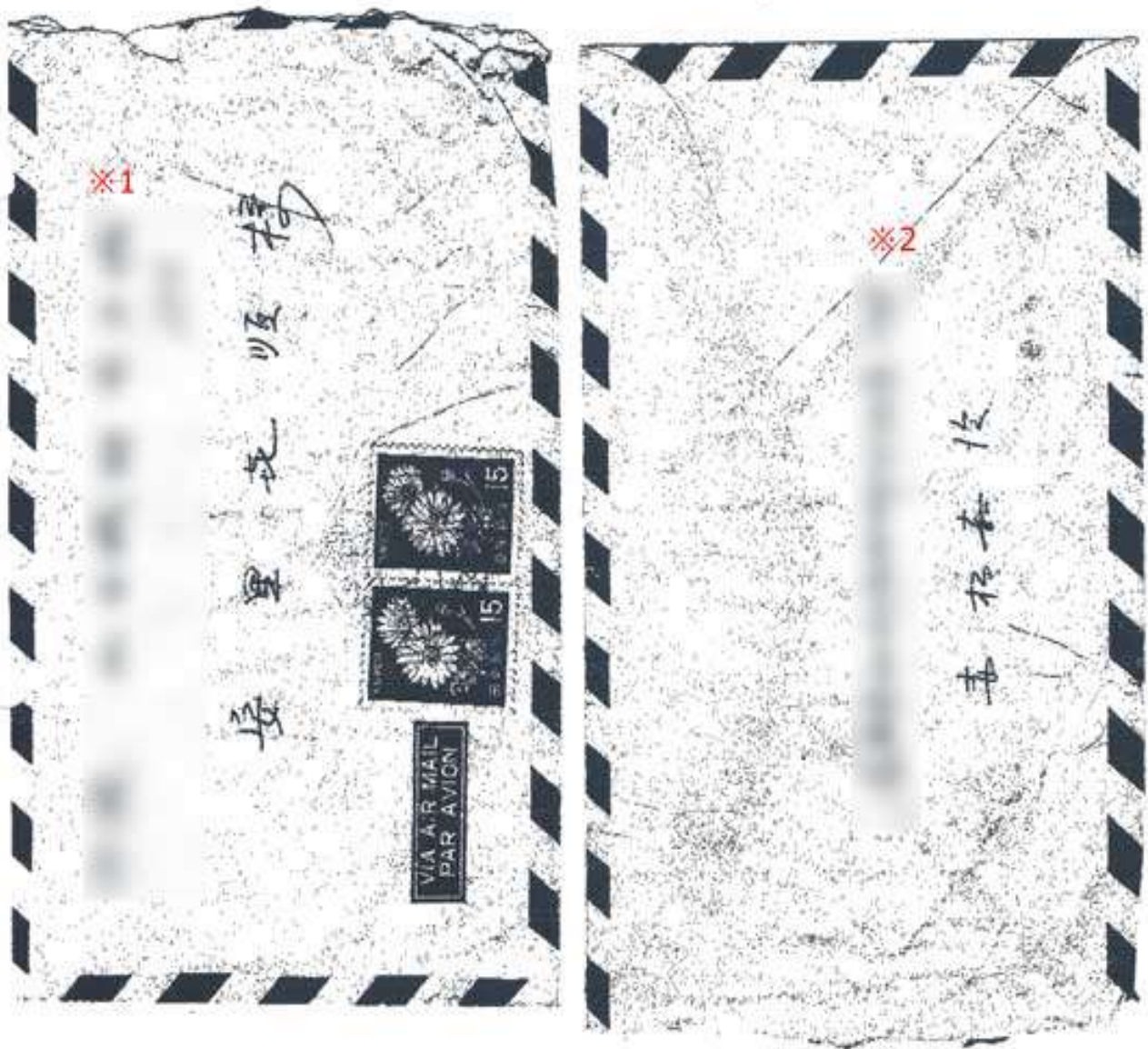
圓枓。其後日物行下さる。既に仲絶日暑いと思ひ下さる  
所自愛身一。往即行り即一  
石不取取。近況即報。ま

且四月十七日

安里花吸枓

敬具

喜枓喜收



※1, ※2: プライバシー保護のため処理しています。